Ⅳ. 境港・・・Ｓｅａ級グルメ全国大会ｉｎ境港実行委員会
第１５回みなとオアシスＳｅａ級グルメ全国大会ｉｎ境港

◆実施期間

令和６年４月１日～令和７年１月３１日

大会開催日

令和６年 11 月９日（土)、10 日（日）

◆実施場所

鳥取県境港市

境夢みなとターミナル及び周辺エリア（鳥取県境港市竹内団地）

◆実施内容

令和６年 11 月９日（土)・10 日（日）にみなとオアシス境港・境夢みなとターミナルを会場として、「第 15 回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会 in 境港」を開催しました。

「Sea 級グルメエリア」では、昨年度の沼津大会に次ぐ 32 のみなとオアシスが出展し、併催事業として夢みなと公園で開催した「さかい夢みなと朝市」では、43 社が出店し、多くのグルメや物産を求めて大会２日間で約５万６千人が来場しました。

今回の境港大会では、「賑わいと海の環境保全」をメインテーマに掲げ、環境保護の啓発や Sea 級グルメ全国大会では、初の試みとなる「ごみゼロ」イベントに取り組みました。当初は、食器のリユースを計画しておりましたが、リユース食器に多大な費用がかかることや運用における主催側の負担が大きいことから、ケミカルリサイクルを活用することとしました。

ケミカルリサイクルとは、廃プラスチックを化学的に分解して原料に戻すリサイクル方法であり、本大会では、Sea 級グルメエリアで販売するグルメの容器をポリスチレン素材で統一し、会場内で徹底した分別回収を行ったのちに、減溶機という専用の機械を用いて、会場での再資源化（インゴット化）を行いました。

箸やゴミ袋、食品残渣など、ポリスチレン素材で準備できないため、ケミカルリサイクルできないものもありましたが、大会開催期間の２日間で排出された 1,897 kgのゴミのうち、約 55%のリサイクルを達成しました。５万人規模のグルメイベントでは先進的な取り組みであり、今後に繋がる実証結果を得ることができました。

種別	回収物	回収量（kg）
分別ごみ（資源ごみ）	ポリスチレン容器・スプーン類	109
	生ごみ（食べ残し、売れ残り）	240
	割りばし	60
	ペットボトル、キャップ、ラベル	12
	ビン・缶	70
	ダンボール	310
	発泡スチロール類	21
	廃食用油	215
	合計	1,037
可燃ごみ	９日（土）分	310
	１０日（日）分	550
	合計	860
合計		1,897

容器を統一することに関して、出展者の理解、協力はもとより、ごみの徹底した分別を来場者に実際に体感してもらうことで、本イベント参加者への海の環境保護意識の醸成に繋がる結果となりました。

また、この「ごみゼロ」イベントの取り組みは、次回開催予定の青森大会でも前向きに検討されています。

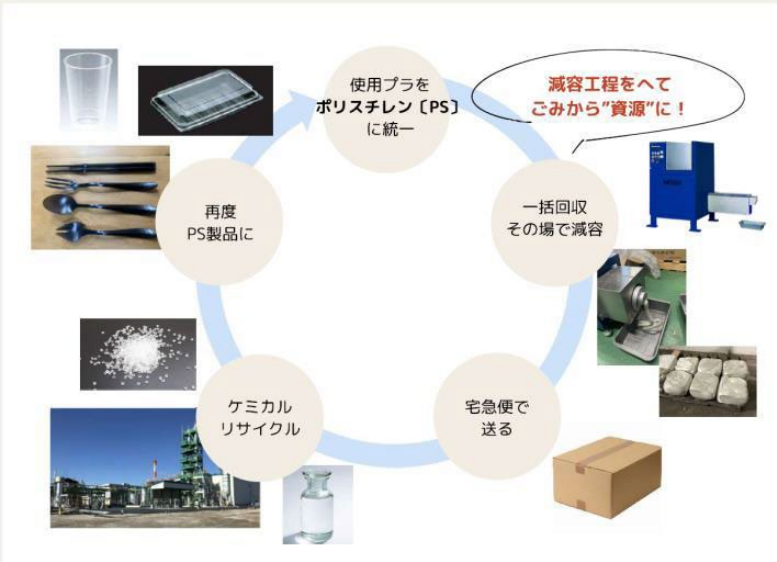
本大会の主なプロモーションと広報として、以下のとおり実施しました。

・大会公式ホームページの開設（7 月～）
・市報さかいみなと（月 1 回、随時）
・境港商工会議所ニュース（月 1 回、4 月～）
・日本海新聞（5 段広告 11 月 2 日）
・山陰中央新報（2 段広告×4 回 10 月 16 日～）
・秋の BSS まつり 2024（9 月 28 日）、境港水産まつり（10 月 13 日）
・山陰中央テレビ（山陰両県・岡山県・広島県でのスポット CM、「SOUP」特集など）
・中海テレビ（『パルディア』特集、コムコムスタジオなど）

◆感想等

会場内での来場者のごみの分別もきちんと行われ、大会 2 日間に会場で排出されたごみの半数以上をリサイクル（再資源化）することができましたが、リサイクルできない可燃ごみの多くが出展者の廃棄物であるなど、今後取り組むべき課題も見えてきました。

大量のごみが排出される食のイベントにおいて、「港」から発信したこの取り組みが成功したことには大きな意味があると考えており、今後の Sea 級グルメ全国大会や港で開催されるイベントでもこの取り組みを参考に「海の環境保護」に取り組んでいただきたいと思います。



ケミカルリサイクルについて

リサイクルステーションの様子

PS 容器の再資源化の様子

開会式の様子

閉会式の様子

会場の賑わい①

会場の賑わい②

大会公式ホームページ

大会ポスター

テレビ放送①

テレビ放送①

コマーシャル放送①

コマーシャル放送②

のぼり